

安全登山

登山が大好きな皆さん！

登山に出かける際、無事に家に帰るために、どのくらい備えていますか？

事故の防止対策は、出かける前、準備段階から始まります。
「こうならないため」、また、「もしこうなったら？」のための備えが大切。

山にコンビニはありません。タクシーも来ません。
欲しいものはすぐに手に入らないし、救助だってすぐに来ません。

繰り返します。事前の準備、自身の心構えがとっても重要！
山には「楽しい！」だけでなく、「危険」があること。忘れないで下さい！

東京都レンジャーは巡視中に事故や傷病者の方の対応をする事があります。その場で出来る限りの事を行い、傷病者が自力下山できるまで、または救助隊が到着するまで付き添うなどの対応をしています。

また、事故の情報を収集し、情報提供に努めています。

今回は私たちが把握している事故事例や、対策案を挙げてみました。

皆さんの安全登山にお役に立つ事を願います。

事

故

発

生

～備えるために、実例を知る～

道迷い

2016年秋、奥多摩で「下山中目印テープに誘導されて登山道を外れ、道に迷った」という事故が発生しました。無事、山岳救助隊に救助され一安心…ですが、このケース、実は増えています。

落ち葉が積もっている、広い尾根である、などただでさえ登山道が分かりづらい箇所にも目印テープが付いていたら？もちろん、目印テープには、本来の登山道を示すものもありますが、それ以外に山仕事で設置されたものなどがあります。

『目印テープは必ずしも登山道を誘導するものではない』

ということ。これを肝に命じ、登山中は地図やコンパスなどで現在地を確認しましょう！！

道迷いを防ぐために、これだけは心掛けて！

1. 地図やコンパスで現在位置を常に把握する！
2. 早めに出発し、余裕をもって行動する！
3. 迷ったと思ったら引き返す！
4. 目印テープを当てにはしない！



広い尾根に落ち葉が積もると登山道がさらに分かりづらい！



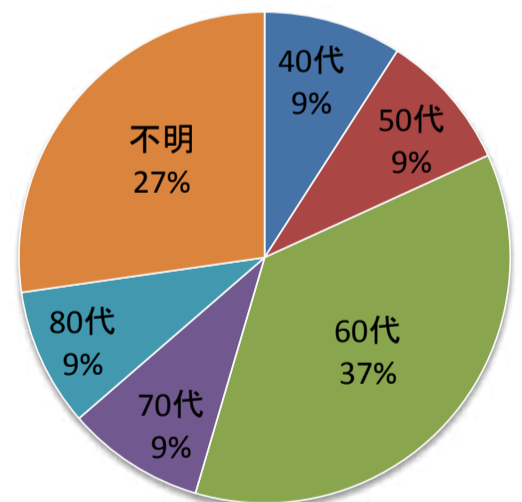
目印テープは必ずしも登山道を誘導しているものではない

転倒

高尾山で多いのは転倒してケガをしてしまうケース。

2015年11月の混雑期にはひと月で6件対応を行いました。転倒によるケガの症状としては、肩を強打し動けない（脱臼の疑い）、頭をぶつけて血が止まらない、足首をひねって歩けない（骨折の疑いのある人も）など。

下山時の滑りやすい土壌や沢沿いの濡れた石などで滑る事が多いようです。また、中高年層の転倒事故が多く見られます。



高尾山で東京都レンジャーが対応した傷病者の年齢構成 (2015年4月～2016年12月)



何気ない場所が滑りやすい



転倒し腕を骨折した疑い